

大草谷津田生きものの里 自然観察会

バッタとカマキリ

晝間初枝（四街道市）

日 時：2016年10月2日（日）10:30～12:00 天候：晴れ

参加者：31名（大人17名 子ども14名）

担当指導員：岡田敬子 晝間初枝

久しぶりの青空、絶好の観察会日和。今日のテーマはバッタとカマキリ。どちらも子ども達にはなじみの生きものである。虫探しに長けている子ども達は、開始前から虫を捕まえてはカゴに入っていた。下見で見つけられなかったコカマキリも難なく見つけてしまう子ども達には脱帽、それも交尾中のようにオンブしているコカマキリには歓声が上がった。

大草には、4種類のカマキリがいることを説明し、出発。入口近くの植え込みに潜んでいたオオカマキリは、どれも産卵間近。大きなお腹で捕えようとすると鋭い鎌を振り上げ、威嚇してくる。おそるおそる背を持って、前脚と前脚の間の色を見たり、後翅を広げてみたりして、オオカマキリであることをみんな確かめた。

杉林を抜けて谷津に出たところでコカマキリを続けて発見。落ち葉や枯れ枝に同化しているにもかかわらず子ども達は見つけるのが本当に早い。小さめのコカマキリは、鎌がそれほど痛くないこともあって、次々に捕まえては自慢げにみせてくれた。近くには、卵からかえったばかりの小さいカナヘビやトカゲもいて子ども達の人気者。木々の間に網を張る大きなジョロウグモ、松葉のようなオナガグモ、獲物を糸で巻いてゆっくり構えるナガコガネグモ、カタツムリ、チョウやトンボなど谷津はこの時期、たくさん生き物のにぎわいがみられる。

田んぼへ下りると、コバネイナゴやオノブバッタがおもしろいように飛び跳ね、勢い余って水路に飛び込むものもいる。水路のアカガエルも受難、子ども達に追われ、逃げ回っている。

ここでのカマキリは、ほとんどチョウセンカマキリだった。オオカマキリに似ているが、前脚の間は鮮やかな朱色、翅も透き通るように薄いので違いがわかる。流石にこれはちょっとこわいのか、それでも勇気を奮って上手に持って得意げに見せてくれた。カマキリにもすっかり慣れたところで、しばらく虫とりを楽しみ、それぞれが捕えた虫の見せ合いつこをした。

最後に、草やぶに潜ませておいた褐色と緑色の草バッタを探すゲーム「カモフラージュ」を行った。初めの合図で一斉にバッタ探し。やぶを一生懸命のぞき込むけれど草や落ち葉にまぎれたバッタは半分も見つけることができなかつた。「どうしてかな」と投げかけると、保護色や環境の違い…などの声が上がり、虫好きの子ども達は虫の生態もよく知っていると感心するばかりであった。

さわやかな秋空の下、バッタやカマキリをたくさん見つけることができたこと、自分の手で捕まえることができたことが何よりも楽しかったようでした。

